

勝林寺報



信心について思う

私は最近、あることがきっかけで「信心」ということについて、思い巡らしてみました。

「信心」

「信心」をつけて言っているのは、「法話によくあるように、私の信心ではない。わたしの思いの中で作り上げたものではない。

わたしの思いのなかで作り上げた信心なら、どうせわがみ勝手な、利己的なきたい信心に違いない。そんな信心を当てにしていたのでは、到底自己中心のこの世の泥沼から救い出される訳がない。

「信心」というものは、人間利己主義の世界から、遠く超えた如来様が、私たち泥沼の凡夫を、一心に信じて、救つてやろう救わすにおかねと働いてくださる仏力・他力の信心なのだと教えていただいております。

ところで、その如来さまの、いつでもどこでも、だれにでも、働いてくださる「信心」に気づかせて頂いたなら、そのお慈悲の中で、私はどう暮らさせて頂いたらよいのか。

ご法話では「恩報謝」の生活をしながらなかったのです。

なんでもかでも、御恩うれしやもったいなやど、おしいただいて生活させて頂く。それも大事なことかもしれないが、

本当にそれでいいのかなど、「の」「の」きりに思うのです。

というのは、みなさん「なんじの通りこんな事件が報道されています。

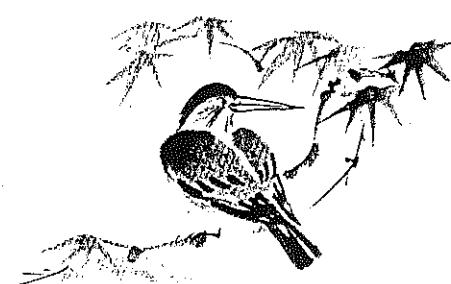
在日朝鮮人女子生徒のあのチマ・チョゴリをカッターナイフで切ったりする日

本人の仲間が多いと言うことです。

日本だけが神国で、支那も朝鮮も日本天皇のしもべというような、昔からの差別政治や差別教育が、今もなお日本人わたしたちの心に残っているのでしょうか

自分独りよがりの、人を差別しない生きている私に、如来様は、そんな狭い我利我利亡者の世界に生きるのではなくて、無量寿・無量光という世界の中で、だれとも寄り添って生きる「世界はみなきょうだい」の生き方をしようではないかと教えて下さいます。その声がお念佛といふことです。

そんなお念佛に呼ばれているならば、当然まず同和問題・民族差別の問題に、念佛もうす者の立場から、小さいながらも発言させていただきなければならないと考え筆を探った次第です。間違いならお教え下さい。



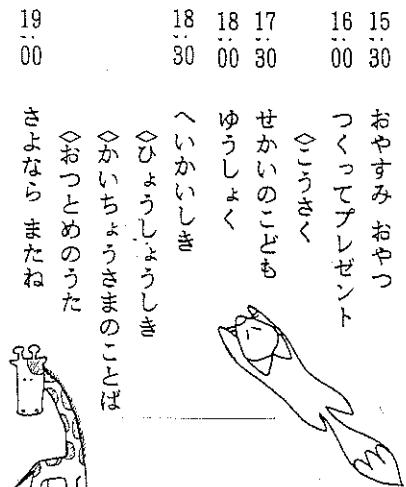
お寺で会おう

ほとけの子

八月十八日



9:00 うつけ
9:30 かけつけ
10:00 かいかいしき
10:30 おつとめ
11:00 おつとめ
11:30 おひるやすみ
12:00 おひる
12:30 まなび
13:00 えほんでれんによあま
13:30 まなび
14:00 あそび
14:30 おやすみ おやつ
15:00 つくつてプレゼント
15:30 せかいのいじわ
16:00 ゆうしょく
16:30 へいかいしき
17:00 ひょうじょうしき
18:00 かごうちょうあまのいじわ
18:30 おつとめのうた
19:00 さよなら またね



八月の「」よみ



一日 銀杏会
二日 岐阜教区研修会
三日 山田まつえ氏宅建墓式
四日 森友鷹男氏宅法事
五日 基幹運動第二専門部会
六日 数森幸枝氏宅法事、田中清喜氏宅法事、山田隆久氏宅法事
七日 山田豊氏宅法事、正法寺追悼会
八日 法事
九日 得度習礼、上田友蔵氏宅法事
十日 高岡教区研修会、玉田会法座
十一日 数森はま氏宅法事
十二日 兼井隆雄氏宅、大石昌一氏宅、石坪久男氏宅、渋谷厚志氏宅
十三日 初盆
十四日 関岡敏雄氏宅、村田三喜男氏宅
十五日 中嶋彰範氏宅初盆、山田花子氏
十六日 成田保氏宅初盆
十七日 平野秀雄氏宅法事、山田定雄氏
宅
十八日 子供会準備
十九日 ことじゅも研修会
二十日 飛驒高山僧侶寺族研修会
二十一日 浜考司氏宅納骨法要
二十二日 前前住職命日法要
二十三日 愛知下組僧侶寺族研修会
二十四日 第三連区布教団研修会(大阪)
二十五日 北陸ブロック布教団研修会(富山)

土産ばなし

70歳をこえてから初めての一人旅を致しました。

朝の出発でしたから電車にはほんの三人しか乗っていません。

その始発の駅から幼稚園児でしょうかかわいい男の子がおばあちゃんに手を引かれて乗り込んで来ました。

朝早く起こされて随分眠かったのでしおう、席にリュックを降ろすなり、おばあちゃんにもたれてコツクリコツクリ居眠りです。そのようすがあまりにもかわいらしいので、ついおばあちゃんと話しかけてしまいました。

親戚にお祝いごとがあつて二泊で出掛けるのだそうです。この子自身、もう何日も前から楽しんでこの日を待っていたのだそうですが、なんといつても子供のこと、眠くて眠くて、おかあちゃんにバイバイするのが精一杯。「こんなふうにまだ夢うつなんですよ」とおばあちゃんはなしてくれました。

特急電車でしたので、次の停車駅まで約40分、ぐっすり眠った坊やが、ハツと目を覚ました。

坊やは、しばらくあたりを見回してから、急に「かあちゃんどー」と聞き、「ぼくバイバイしなかつた。おあちゃんとここに帰る」と言うのです。でもおはあちゃんは、こんなことには慣れていらっしゃるのでしょう。落ち着いて「ちゃんとバイバイして来たでしょ。もう電車にのって来たんだからね」すると坊や、とたんに席から飛び降りると、電車の中を逆方向に走りだそうとするのです。

「だめよ坊や、電車は走ってるんだから、走つたって飛んだって、かあちゃんどの駅には帰られやあしないんだよ」



おばあちゃんは孫の手を引っ張つてやさしく言いました。

ところが坊や、おばあちゃんの顔を見上げて、不審そうに尋ねたのです。

「何で、なんで走つてる電車のなかで、飛んでも走つても、ダメなんだ」

聞いていて私、びっくりしました。

なんとまあ聰明な坊やだろう。ガリレオかニユートンさんとおんなじだ。きっとこの子たいした科学者になるに違いない。

この私だってこの理屈、慣性とかなんとか、学校で習ったはずなのに、そんなむずかしいこともうとっくに忘れてしまつている。「走る電車のなかで、飛んだつて走つたってダメなんだ」ということ。はてさてなんでだったのかな。

坊やはそれから、おばあちゃんの説得で、おりこうに楽しく電車の旅をつづけ行きましたが、わたしはこのちっちゃな坊やから、いくつもいくつもたいへんなことを勉強させてもらいました。

あらためて物理の法則を考えて見たこと。それと、わたし自身の歳が、特急電車みたいに死に向かって確実にどんどん走り進んで行つてゐるのに、その電車のなんかを飛んだり撥ねたり、もがいたり。死にたくない、若返りたい、まだまだ大丈夫などと。物理の法則だけでなく仏法さまの教えそつちの内で、毎日を過ごしているのは、おばあちゃん、おまえだぞ、とこの坊や、教えてくれたんだ。

わたくしの二泊三日の一人旅の間、あの坊やのあどけない顔を思い出しました。この坊や、教えてくれた事で、おはすかしい土産話です。

【次頁】本願寺神戸別院復興についての即如意主さまのご消息です。

寺院・僧侶・門信徒の方々には、阿弥陀如来の「本願を思い、親鸞さまの「世の中安穏

戦争犠牲者五〇回忌 盂蘭盆会法要

八月八日
午後一時半 法要
記念講演
こそつてお参り下さい。
兵庫教区仏教婦人但馬ブロック
研修会に参加して
南 加寿子

七月十四日十時より、朝来組如来寺今までの研修会が開かれました。

まず配布された冊子をご覧いただきます。

**早々過ぎ去りし
五十年**

なれ、仏法ひるまれ」の「遺訓を体し、また蓮如上人の「一人なりとも人の信をとるが一宗の繁昌に候」の思召しにそい、仏恩報謝の懸念を結集して、この大業を完遂されます。ようと述べられてあります。

続いて次ぎのページには仏婦総連盟總裁大谷範子さまのお言葉です。

どうか「念佛の声を世界に子や孫に」と、宗門の基幹運動をすすめるなかで誓いあいたいものですとのべられています。

次には例の仏婦綱領が掲げられ全員で唱和して開会行事を終わりました。

十一時から教区仏婦連盟の活動方針の説明があつた後、いよいよ講義「御恩報謝」をして研修指導員の先生から「日常のおつとめ（偈文の勤行）」の練習。そして年間の行事についての解説があり改めて学ばせていただきました。

昼食のあと講義「親鸞聖人の教え」は「親鸞聖人の教え」について安芸教区の鷹谷俊昭先生のお話しでした。すべて御恩報謝の気持ちがなくてはと学ばせていただきました。

その後の佛教讃歌「山科の路」（蓮如さまをたたえて）の指導は朝来組金蔵寺坊守さまがしてくださいました。

「話し合ひ法座」では五名ほどの質問をめぐつて應答がありましたが、それを聞かせていただいている中で、気づかせていただこうとばかりでありました。

研修会はこのようにして四時に閉会しましたが、わたしが全体を通して学ばせていましたことは「足でかせいで、耳で聞いて口で唱える」くらしに切り換えるなくてはということでした。寺の行事の度ごとに、出来るだけ足を運び聞法のご縁にあわせていただこうと。精一杯の行動をこれからはじめなければと気づかせていただきました。

ちなみに当日の参加者は三百を越える多数の集まりでした。出石組のどの寺からも勝林寺からも三人参加しておきました。